

電気通信大学 平成18年度シラバス

授業科目名	Academic Written English I		
英文授業科目名	Academic Written English I		
開講年度	2006年度	開講年次	1年次
開講学期	1学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化基礎科目 I		
開講学科・専攻	電子工学科 量子・物質工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	芝 優子		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ

【主題および達成目標】
<p>主題：英語を勉強するのではなく、英語で勉強する。英語を使いながら力をつける。 目標：世界中で共通語として使用されている英語に立ち向かう勇気を持つ。インターネット上の英語と格闘し、辞書の助けを借りて内容を正しく理解できるように努力する。また、周辺の知識をサーチすることから理解をより深め、自信を持てるようになりたい。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
なし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
なし

【教科書等】
<p>授業中に使用する主たる教材はインターネットの各種サイト。 出席を取る代わりに短時間の練習問題をする。そのために副教材を使用する。 副教材：Listening Navigator for the TOEIC Test (Seibido)</p>

【授業内容とその進め方】

この授業では、インターネットの各種サイトをサーチし、サイトが信頼に足るか否かの判断から始め、資料を選別し、確実に読み取り、内容を理解し、関連問題のサーチを進めながら内容理解をより深めるという作業を行います。

使用するサイトは、英米の主たるネットワークや国際機関など様々な分野にわたり、学生諸君の要望にも応じたり、関心を集める国際問題に関連したものを取り上げたりと、柔軟に対応していきます。例えば、大きな災害が発生した場合、世界中でどういう警報が発せられたか、各国でどんな報道が行われているかなどを実際にサーチするなど、現実世界の動きに敏感でありたいと思います。

また、授業中に取り上げたテーマに関連して各自でインターネットを参考にレポートを作成提出することも大いに薦めます。資料を確実に読み取る練習には、できるだけ多くの経験をすることが重要なことだからです。

学生諸君の積極的な参加があって成立する授業となります。

このように、どちらかというとな個人の作業が主になるので、授業の最初に出席を取る代わりに、短時間の斉練習問題をやります。副教材としてTOEICと同じ形式の練習問題を使用し、短時間に緊張して問題に取り組む練習をし、一石二鳥を狙います。

なお、演習なので、英語を理解するために辞書が必要です。英和中辞典程度の辞書を持参しない場合、出席とは認めませんので注意してください。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a) 評価方法：

授業への出席、積極的な参加態度を重視する。

評価は：

授業始めの練習問題の総合結果（主に出席を評価）	30%
学期中数回の義務及び自由提出のレポート（参加意欲と内容理解）	40%
期末試験（内容理解）	30%

(b) 評価基準：

上記の評価方法のそれぞれに関して、50%に満たないものがある場合には合計が60%に達したとしても合格の評価はしない。

【オフィスアワー：授業相談】

金曜午後

【学生へのメッセージ】

インターネットが広がると共に世界共通語としての英語の重要性が増して来ています。少し前までは英語をやるなら「ネイティブのような英語」が目標でしたが、今や、「外国語としての英語」が主流になるほど、皆が英語を使う必要が出てきたのです。学生諸君も、まずは自分の英語でできることから始め、すこしづつ「通じる英語」へと進化させるように努力してください。下手で良い、まずは使ってみましょう。

電気通信大学 平成18年度シラバス

【その他】